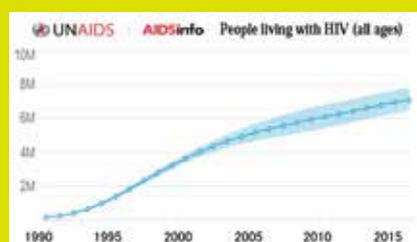




子どもたちから始まる、
希望ある社会づくりを目指して

アパルトヘイト終焉から24年経ち、BRICSやG20の仲間入りをするなど経済力を増す南アフリカ。一方で貧富の格差は広がり続け、貧困・高失業率・不平等などの社会課題を抱えています。特に若い世代が悪影響を受け、0~14歳の子どもの3分の2が貧困下に暮らし、15~34歳の若者の失業率が50%に上るとされています。この状況は「世界最悪」と言われるHIV/エイズ感染の広がり、さらに教育機会の喪失や犯罪など、他の様々な社会課題に直結し、世代を超えた負の連鎖をもたらしています。困難な状況下に置かれた子ども・若者たちへのサポートとともに、この悪循環を断ち切るための活動が必要とされています。



710万人という世界一の陽性者数を抱え、大人の5人に1人がHIVに感染しています。

新しい活動を行うための調査、 情報収集など

南アフリカの社会背景・課題を受けて、2017年度までに実施してきた経験と成果を周辺地域に広げていくために、新しい事業の立案を行いました。

これまでの活動では、村の母親たちが運営する家庭環境が困難な子どものためのケアセンター（Drop in Center、以下DIC）をパートナー団体としてきました。家庭環境が困難な状況下にある子ども・青少年への支援を通じ、ケアの質の向上やエンパワメントを通じた青少年の行動変容、家庭菜園づくりを通じた食料の確保などを実現しました。

2018年は近隣の行政地区で調査・情報収集を通じたパートナー団体と活動地の選定を行い、2地域のDIC2つに候補を絞りました。そのうえで、パートナー団体候補にJVCの活動について知ってもらい、信頼関係を築いていくために、2017年度までのパートナーDICとの経験交流を実施しました。これらの過程を通じてお互いに協働していくことに合意、これに基づき、共同でコミュニティや子どもの状況、団体に関する現状把握調査や、戦略と活動計画づくりなどを進めました。以上を受けて、2019年度から新しい活動として「貧困下に置かれた子どもに対する地域住民によるケアサポートの強化および青少年のエンパワメント事業」を開始します。



調査の過程では、DICに通う青少年たちにもインタビュー



パートナー団体で行なったワークショップでファシリテートするJVCスタッフ(右)